

教育課程編成委員会
平成29年度 第2回委員会 議事録

1. 日時および場所

日時：平成30年2月21日（水）18：15～20：10

場所：修成建設専門学校 129教室

2. 出席者

山本剛、東泰紀、田中義久、西濱浩次、小松原学、大上哲男、辻裕樹、村橋昭洋、
小島章、瀧上郁織、森本和真、大槻憲章

山下裕貴、堤下隆司、谷川博康、増田和浩、荒木伸輔、見邨佳朗、釜友知與子、
中島良明、野瀬孝男、中安哲男、明石祥子、亀井哲男

以上24名

3. 配布資料

資料1-1：平成29年度第2回委員会 議事次第

資料1-2：出席予定委員一覧表

資料1-3：平成29年度第1回委員会 議事録（案）

資料1-4：話題提供者からの資料（別添）

4. 議事次第

(1) 開会挨拶

堤下校長から開会挨拶に続き、教育課程編成委員会の概要説明・卒業展開催の謝辞があった。

山下理事長から学園の現状について報告があった。

(2) 委員出席確認

(3) 議事内容説明

堤下校長から議事内容について説明が行われた。

1) 平成29年度第1回委員会 議事録（案）の確認

亀井委員から前回議事録の説明があり、異議なく承認された。

2) 平成29年度全学科課程年間報告

■建築学科（昼・夜・デュアルシステム科）・・・増田委員

インターンシップ、オープンデスクによる企業連携や大学編入等進路決定の充実に注力した。インターンシップには夏春合わせて174名が参加した。

資格取得状況

福祉住環境コーディネーター・建築CAD検定に加え今年度より積算士補を学科の目指すべき資格と位置づけた。第二本科については働きながら学ぶという目標で組み立てられており、時間的に昼間部の半分しか時間がとれないため、夏休みや土曜日の有効活用を実施している。

本年度は、受験資格取得済み在学生1名が二級建築士試験に合格した。（学科合格は2名）

■建築CGデザイン学科・・・見邨委員

前期からの補足実績

- ・設計総論において多様なスペシャリストから各分野の面白さや難しさなどを学び進路指針とした（前期15回・後期15回）
- ・CG動画ソフト+BIMに注力した

■空間デザイン学科・・・見邨委員

前期からの補足実績

- ・設計総論において多様なスペシャリストから各分野の面白さや難しさなどを学び進路指針とした（前期15回・後期15回）
- ・日本商環境デザイン協会に入会しデザインのプロとの接点を増やした
- ・日本建築士事務所協会連合会全国大会和歌山大会における学生発表及び作品展示により建築士との交流機会が持てた。
- ・日本商環境デザイン協会賛助会員となり専門化とのつながりを強化した
- ・建築CGデザイン学科・空間デザイン学科の資格取得状況を説明

■専科2級建築士科・・・見邨委員

- ・2級建築士合格率は82.86%と全国の24.28%を大きく上回った

■住環境リノベーション学科・・・中島委員

学科の大きな目標は、2級建築施工管理技士の学科試験全員合格。キャタピラ講習会（技能講習・特別教育）計9個の取得。その他に企業との連携による建設現場見学。1年生の9月に合宿で行く富士研修センターでの1週間実技合宿など実践で行う内容を中心にカリキュラムを組んでいる。今年は2級建築施工管理技士の合格率が50%だったので次年度は100%に近づけるよう集中講義等で指導をしていく。学生の中には、大工希望者もいるため、希望者を含めた学生に木工制作やベンチ作成などを行った。1年生大工希望者については、次年度からは夏休みごろに3級大工技能士の基礎講習等ができるような計画を立てている。卒業設計では意匠図から施工図・総合仮設図まで描いている。

■土木工学科、建設エンジニア学科・・・野瀬委員

インターンシップには1年生が昨年夏と今春で48名中44名参加。

1年生は後期のワークショップの授業において企業の方を招いて実務者の講義を受講し、進路決定の参考にしている

- ・資格取得について説明。専任教員が実地試験に関して指導を実施

- ・2級土木施工管理技術検定 学科

年2回実施される試験の内10月に実施される試験を目標に2年生が受験する事としている

■建設エンジニア学科・・・野瀬委員

- ・1年：特別教育2種目、技能講習2目の計4種目修了

- ・2年：安全教育1種目、特別教育2種目、技能講習3目の計6種目修了

卒業までに10種目の資格を取得した。

■ガーデンデザイン学科・・・中安委員

- ・本年度も実習・演習・見学を教育活動の中心とした。

- ・企業、業界関係団体、近隣地域との連携・交流・イベント参加に注力した。

- ・進路担当との連携により全員の進路が決定した。

- ・「全てを教えず」質問しやすい環境づくり、「学生に見えるよう・理解できるよう」科目連携し教員相互の情報共有を実現した。

- ・大阪市建設局・堺市との繋がりも昨年度以上とした

- ・卒業設計も企業連携として実施し、企業所有ビル屋上庭園を設計・プレゼンまで行った。

- ・資格取得について説明した。

3) 話題提供

公益社団法人大阪府建築士会副会長

株式会社田中都市建築事務所代表取締役 田中義久委員より

田中委員が2016年11月にジブチ・エチオピアを歴訪した様子を、紀行としてまとめられた冊子とパワーポイントにて興味深く紹介いただいた。委員自身が病氣療養中に人生の中で未だやっていないことがたくさんあることに気づいたこと、内閣府参与による講演会を企画開催された折の「これからの消費地はアフリカが中心になる」

「資本主義の限界を打破する公益資本主義が必要である」というセンテンスに感化され実行に移したとのこと。

修成建設専門学校の学生も、どんどん海外にも目を向けていくことは大切なことであると一石を投じられた。

4) グループ討議

- A) 建築グループ・・・・・・司会：増田 記録：見邨
山本、東、田中、西濱、辻、村橋
谷川、増田、荒木、見邨、釜友、中島 以上12名

増田委員から

①「本校も毎年海外研修旅行を実施しているが、推奨される行き先はどのような国でしょうか？」とあり外部委員からの意見を求めた。

- ・ドイツ (BAU HAUS)、イギリス
プリミティブで基本的なところが良いのではないかな。
- ・フランス、イタリア、イギリス
日本文化との比較をすると良い
- ・イタリア (フィレンツェ)
建築単体ではなく、街並みを見る
- ・ヨーロッパが良いと思うが10日間で2カ国ぐらいにとどめてじっくり
- ・台湾
日本との交流も盛んである
- ・帰国後レポートをまとめ、振り返りの時間を作ることは重要である

②「インターシップで身につけて欲しいと思うところはどんなことですか」とあり外部委員からの意見を求めた。

- ・挨拶
- ・社会常識
- ・どんどん前に出て自分の意見を言えること
- ・若者の特権である明るさ、元気を前面に出す

- B) 土木・造園グループ・・・・・・司会：中安 記録：野瀬
小松原、大上、小島、瀧上、森本、大槻
山下、堤下、中安、明石、亀井、野瀬 以上12名

中安委員から

「田中委員の話題提供の感想やその他の意見を聞かせていただきたい。」とあり外部委員からの意見を求めた。

- ・ジブチには緑がなく、植林などで参加したいと感じた。
- ・海外の砂漠等で植林する事の意味を理解してもらうまでが大変。
- ・砂防林としての植林等、日本の技術が理解されると現地の人にも協力してくれる。
- ・海外の施工管理では、材料や人が来なかったり、工期が遅れたり、途中で終わったりもすることがある。

- ・図面の作成を海外に外注しているが海外も価格が上昇してきている。
- ・国によって仕事のやり方にいろいろな特色がある。
- ・日本の技術、技能は素晴らしく、建設業は物を造って終わりではなく、今後は建設産業として日本の技術、技能を指導し世界で仕事をする事になる。
- ・岡山の工業高校ではカンボジアと提携して指導している。
- ・日本と外国の橋渡しを学校が担うと良いのではないか。
- ・ミャンマーやベトナムより今回話があった様に、地下資源のあるアフリカやモンゴルも外国は対象としており、日本も同じだと思う。

(4) 次回開催日時について

日時：平成30年10月中旬

場所：修成建設専門学校 129教室

内容：平成30年度各学科カリキュラム実施報告

その他

以上(記録・文責：見邨佳朗 野瀬孝男)